



MARIA'S BABIES SOCIETY
FIXTURES

園曆



なぜ

幼児の教育の場において二十四節気や和歌が、園児の日常生活に反映されているのか、ご父兄様には些か不思議に思われたかと思います。

ご説明の為に、ひとつのアナロジーをあげましょう。

皆様のお家にイタリア人がホームステイにいらしたとしましょう。

「僕は日本が大好きなんです。どうか日本の文化について教えてください。日本の季節や暦について、日本の神話や神社、お寺について、和歌のこと、世界最古の詩集といわれる万葉集について、同じく世界最古の小説といわれる源氏物語について、また日本の美術や雅楽のこと、日本の政治や選挙のこと、僕はこの素晴らしい日本の文化や歴史、伝統について学んで帰りたいので教えてください。」とイタリア人があなたに願います。





その言葉に対して、「それでは、イタリア生まれ、イタリア育ち、ご両親がイタリア人のあなたに、是非イタリアの同じ事柄を交換に教えて下さいますか。」と、あなたが返します。

そしてその答えが、「僕はイタリア人ですが、残念ながらイタリアの文化や歴史、伝統について殆ど何も知らないんです。教わってないから、わからないんです。」であったなら、あなたはその方を、どの様に思われますか。あなたはこの方を、信頼するに足る人間、と感ずることが出来るでしょうか。

この例は、「あなたを知りたい」けれども「私は自分自身を知りません」に等しく、自分自身を理解していない人が、他者を理解することができるか否か、答えは言うまでもない事と思われま

す。



今、自分がここにある奇跡。

「私の今」を可能にしてくれた数知れぬ先人達が、
如何なる難題に苦悩し、変化を試み、守り抜き、
遙かな時を生き抜いてきたのか。

残念ながら、過去80年近くの日本の学校及び家庭教育において、こ
の、人の中心を成す「自分達の事」の教えが著しく欠けている事は
明らかなのではないでしょうか。

このイタリア人留学生は、「自分は日本のことを知らない」で事済
んだ時代を生き、どこかで矛盾を奥底に抱えながらも、これ以上な
く大切な事と向き合わず、浮き草の様に流されて来た、多くの日本
人の姿に重ると感じるのは、私一人でしょうか。

私たちは一体何を忘れ去って来たのか

私たちが本当に子供達に

伝えなくてはならない事を

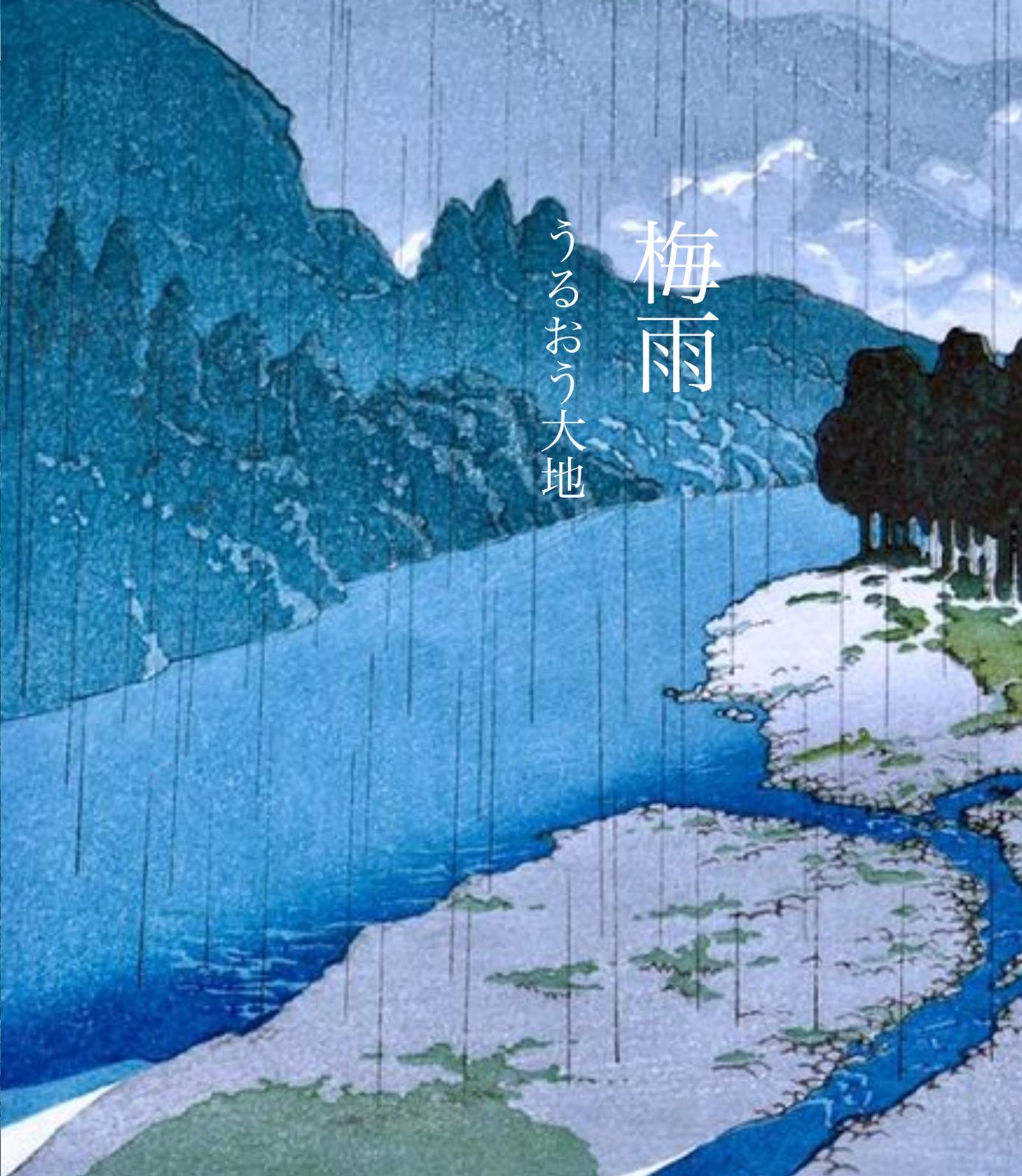
私たちが自身は知っているのか





仲夏

梅雨晴れ
深い緑の香り



梅雨

うるおう大地



錦秋

眩しいほどの真つ赤なもみじ



名月

黄金色の大きな大きなお月様

豊かな日本の美意識が子供の中に育まれる
歴史と伝統文化に則った園児たちの五節句や四季おりおりの生活のかたち

日本の美しく豊かな四季

必ず訪れる天災

いつも短く激しい

大自然の寛厳によって

練られてきた日本

この気候風土が

豊かな言葉や

独自の感性を生み落とし

巡る季節が

和歌や俳句、季語

など

磨き澄まされた

言葉の世界を

確立させて

いった

私たち日本人は

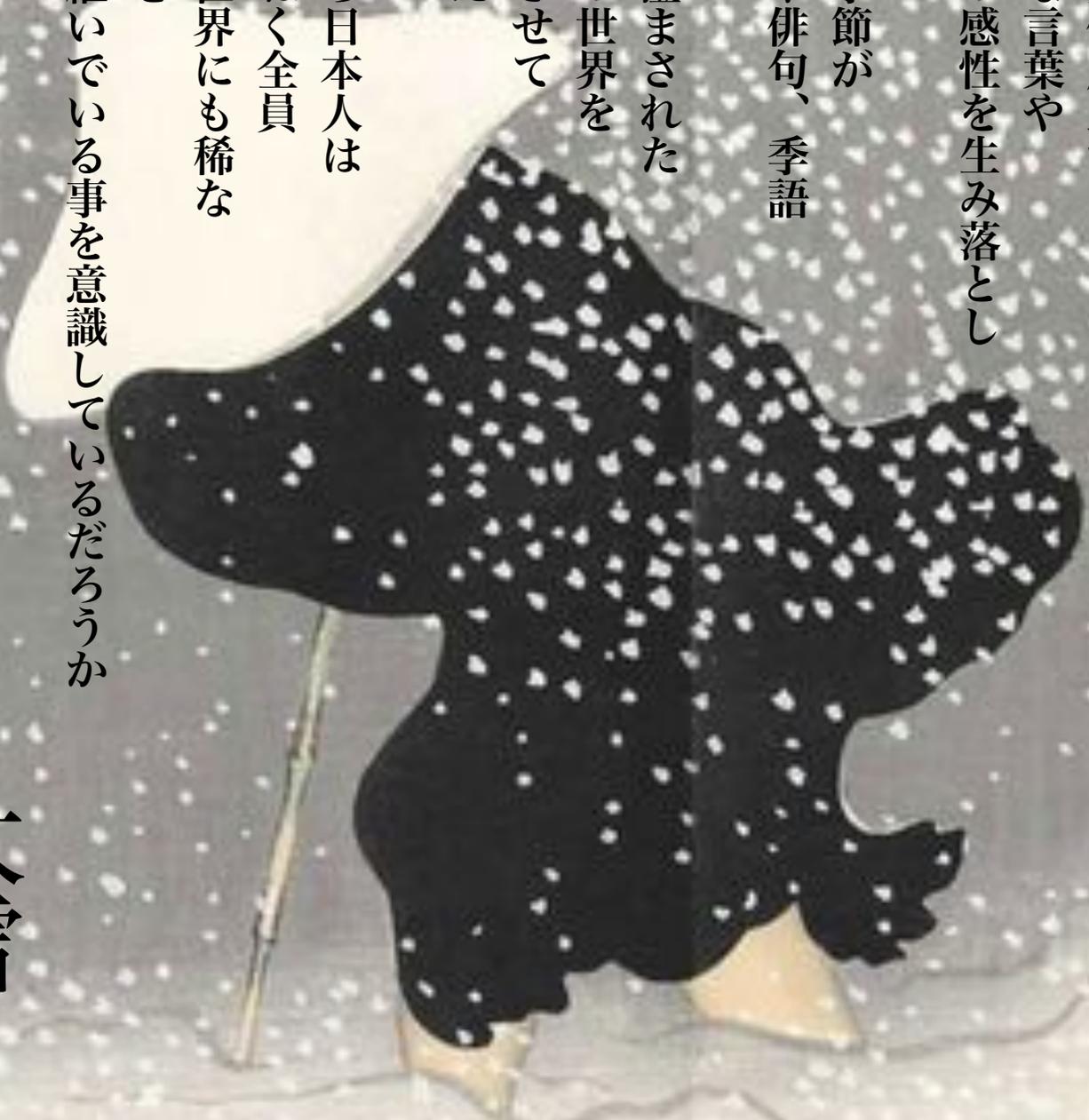
あまねく全員

その世界にも稀な

言葉を

受け継いでいる事を意識しているだろうか

大雪

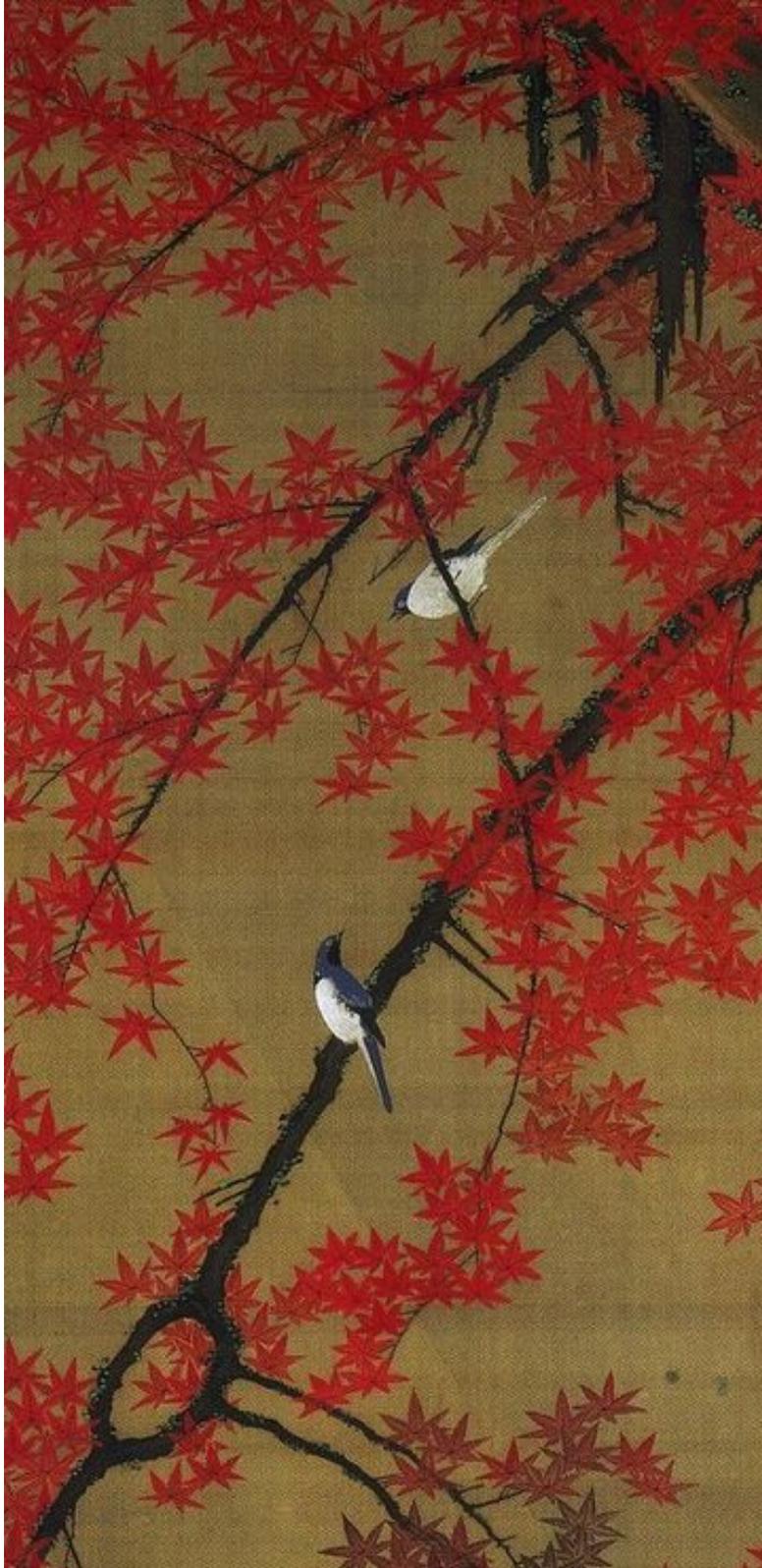




水の面に綾織り乱る春雨や

山の緑をなべて染むらん

伊勢



秋の月 山辺さやかに照らせるは

おつるもみぢの数を見よとか

よみひとしらず



マリアズ・ベビーズ・ソサエティーには、二十四節
気に沿った独自の園暦があります。

節気は、十五日毎の大自然の変化を、数字ではなく
「言葉」で表現する日本の季節の表現のひとつで
す。また、この二十四節気を囲むように、更に細か
い七十二候という季節の言葉が五日おきに巡りま
す。

二十四節気七十二候、それは、私達日本人がほんの
百年くらい前まで、生活の中で親しんでいた、季節
や時間の感覚です。





園の子供達は、五節句や季節の行事を丁寧に経験し、大自然の変化を敏感に感じながら、衣食住に反映される「日本独自の繊細な美意識」そして「豊かな日本語」を身につけていきます。

子供達の心の礎に、季節や風土の感性をしっかりと納めてほしい。

その根が「抛り所」となり、将来広い世界に翼を広げる上で必要となる
太い幹を育て、揺るぎない自信に繋がって行くだろうから。

唯一無二の文化を豊かに持つ日本。

その思想や表現が、限らない領域で

世界貢献となる日を

子供達が切り拓いて行くのだ。

日本は極めて重要な世界の一員。

その国を代表する一人として

幼心に身につけたこの基礎を

大いに生かしてほしい。

その時がいつか必ず来る事を心から願う。

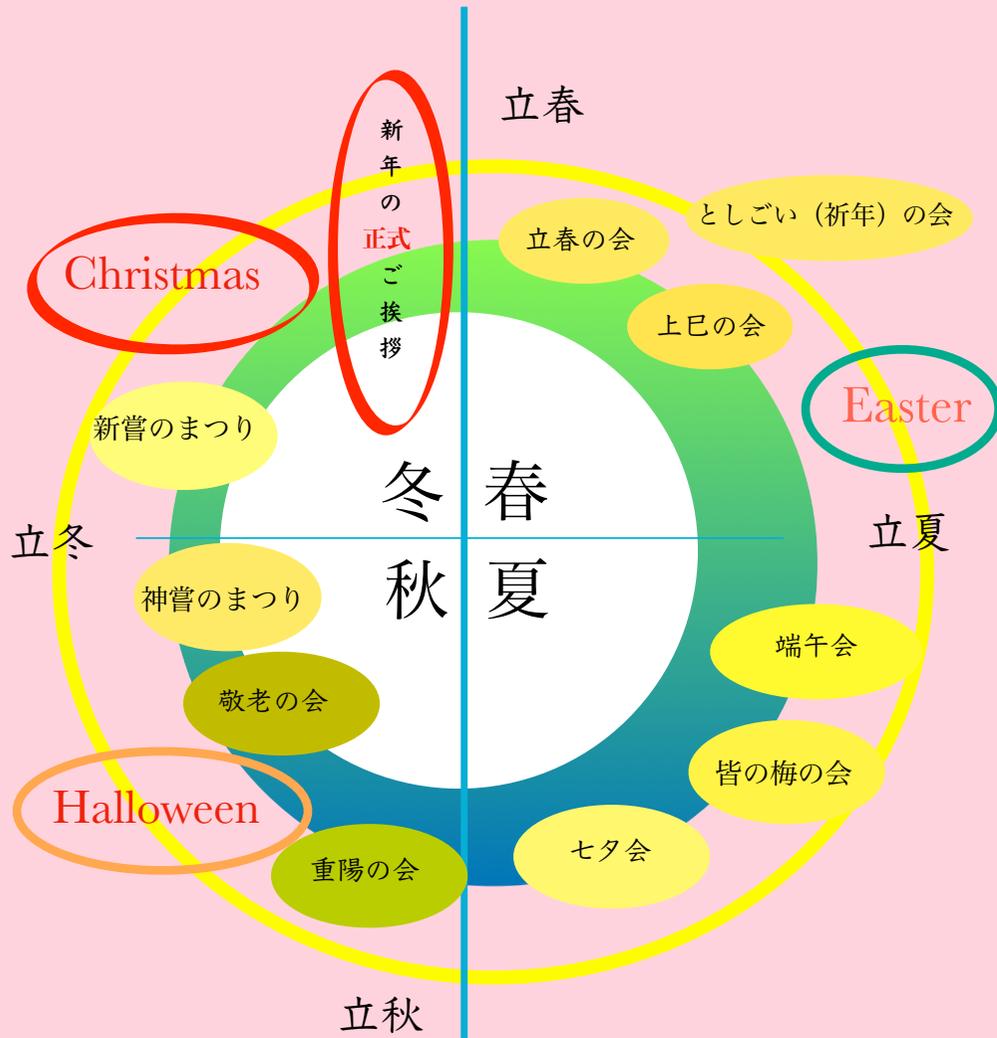


園曆

マリアズの「園曆」をご覧になるにあたり、二十四節気及び八節を整理しますと、曆の細部が結びつき、全体がすつきりと整合され、ご理解が容易になるかと思われます。それでは、これより卒業生（小学生）に園生活を思い出ししてもらいながら、といった想定で園曆の説明を進めさせて頂きます。

これが、マリアズの曆「園曆」だね。

みんな、このカレンダーに沿って、春夏秋冬を園で過ごし育ったね。それでは、この曆の成り立ちを今一度さらっていくから、思い出してみてね。



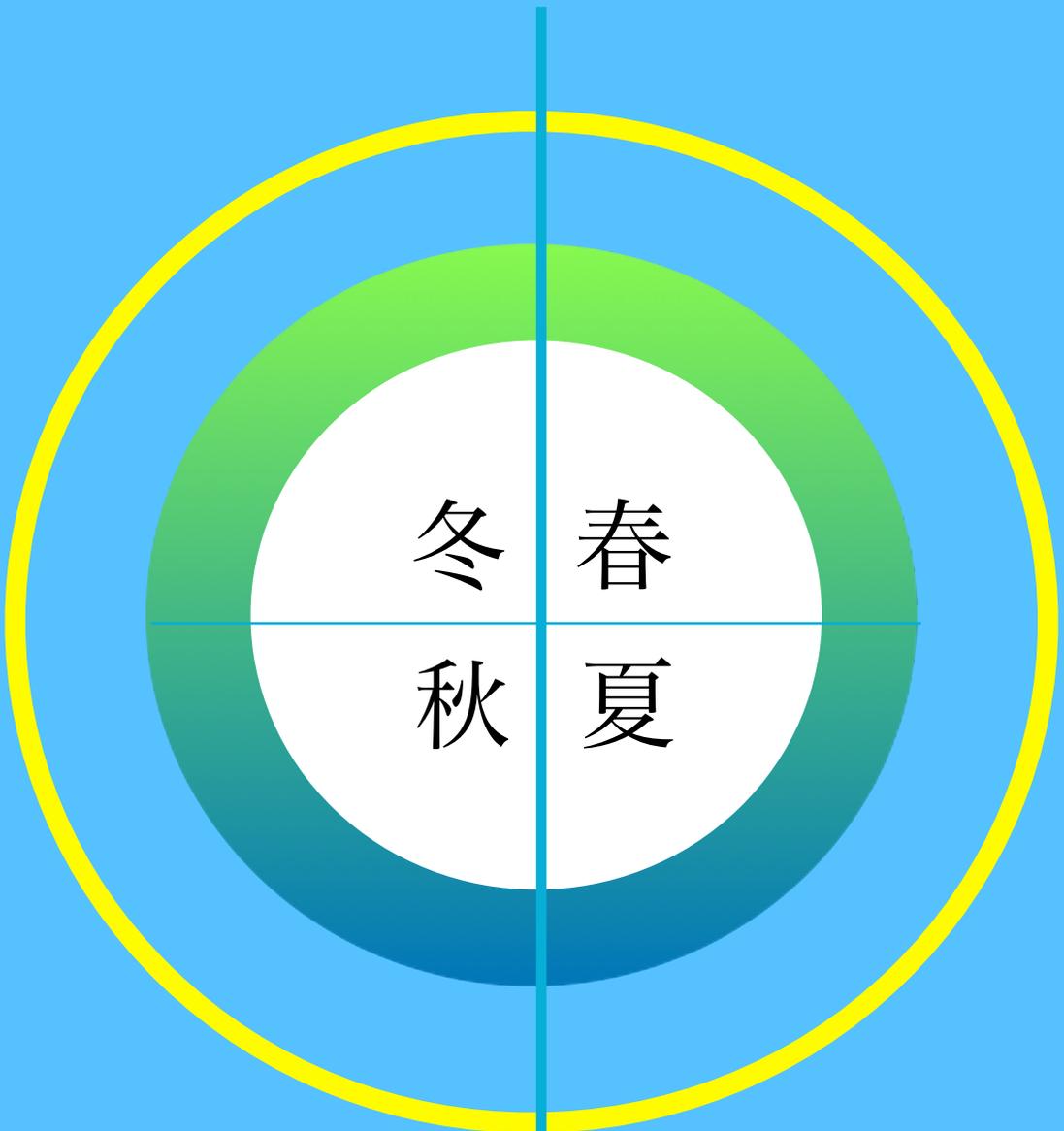
日本の四季

日本には四つの季節がある。これはみんな知っているね。

園の行事の間を縫うように、十五日おきに二十四節気が巡ってくる。

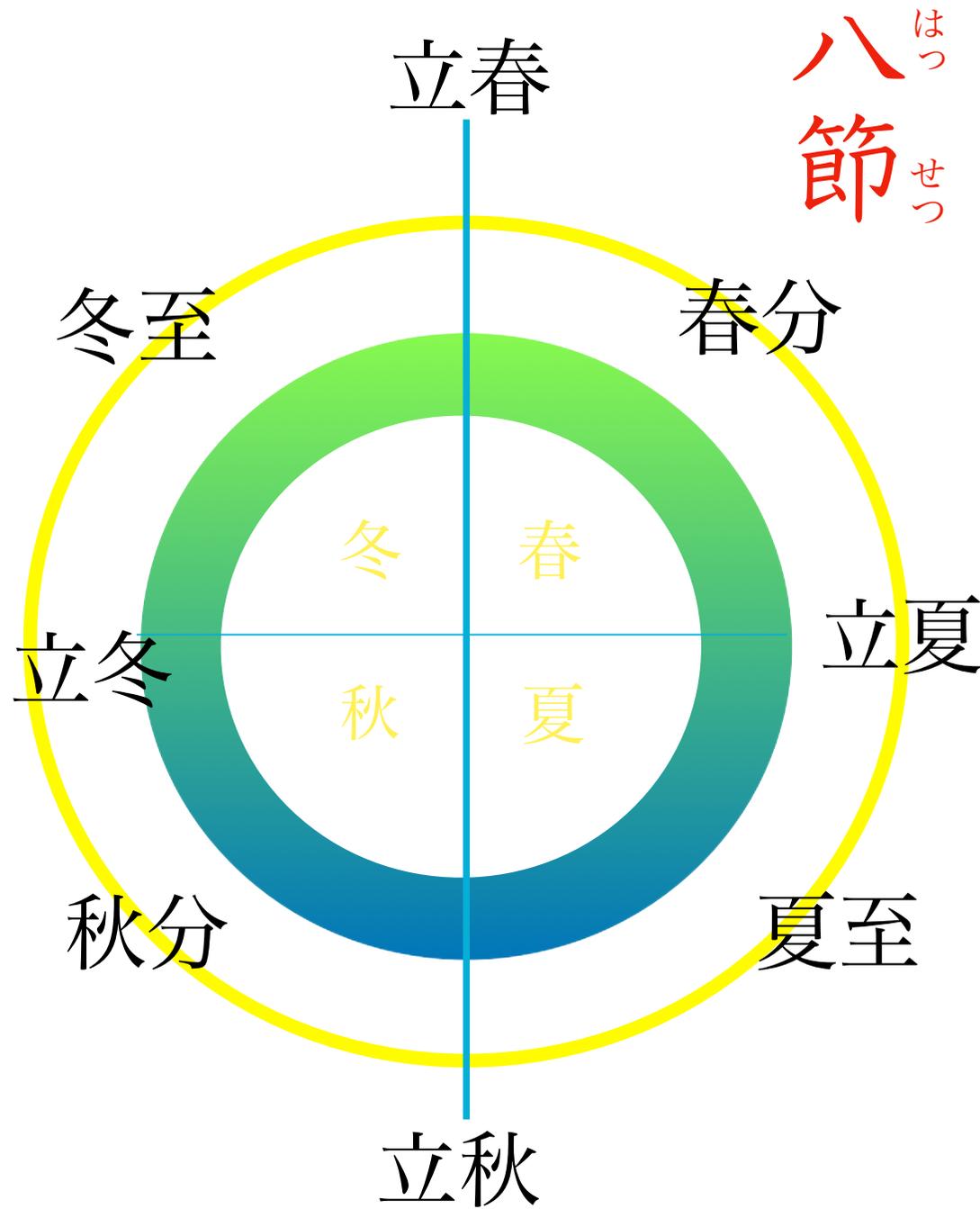
この二十四節気の文言を、卒園生が毛筆で書いてくれた。

これは園の万年カレンダーで、未来永劫、十五日おきに節気を入れ変えていく。それが園の日常だったね。



八節

毎年みんなが楽しみにしていた節分の「豆まき」、その翌日となる「立春」から、ぐるっと巡って「冬至」までの八つの節目、それが、立春、春分、立夏、夏至、立秋、秋分、立冬、冬至、だったね。みんな其々の節がどの様な日だったか覚えているかな、それでは、これからおさらいをしよう。



四立 しりゅう

季節の始まりは必ず「立つ」が、季節名の頭につく。

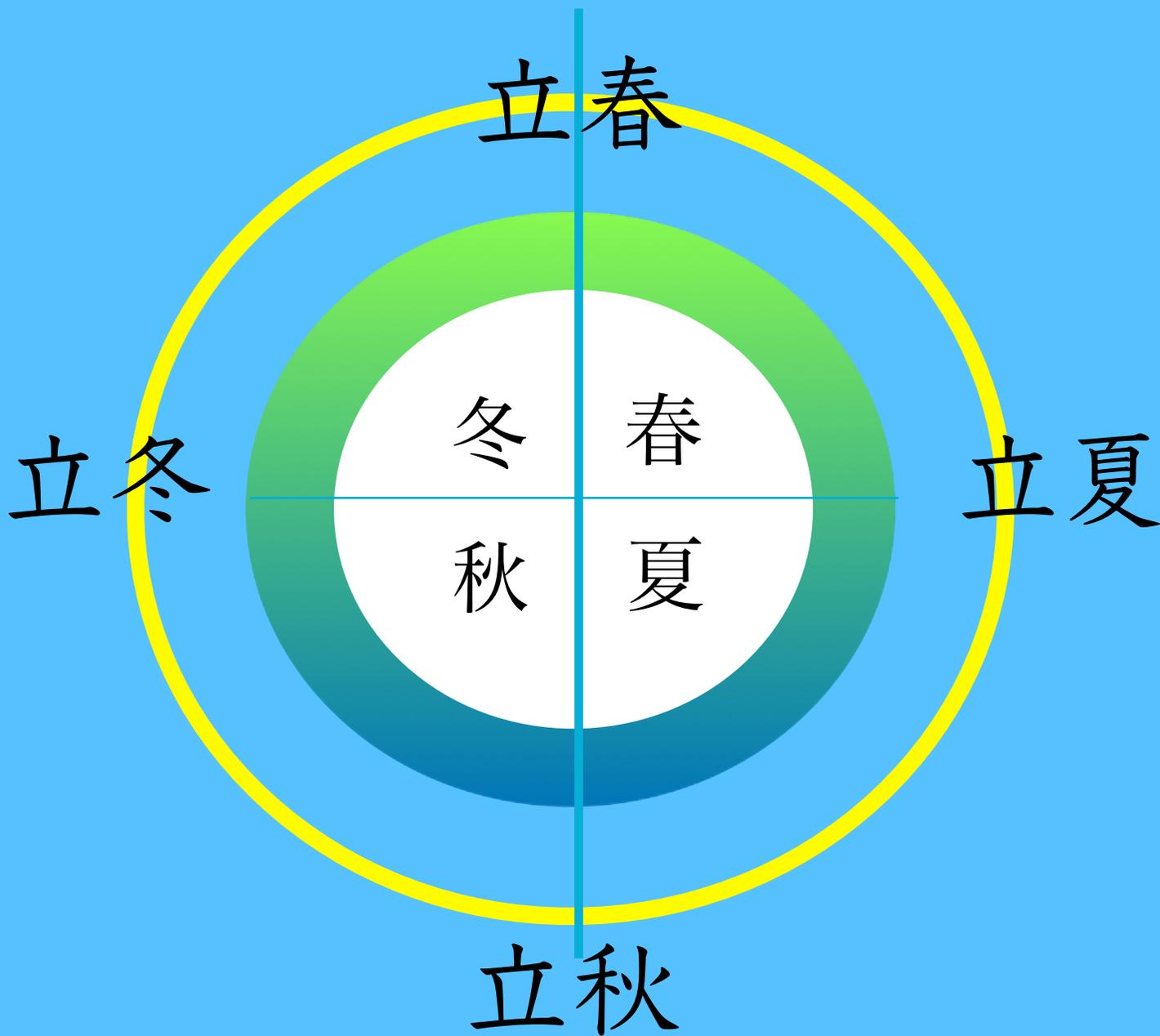
そこで、立春、立夏、立秋、そして立冬、となる。

この季節の始まりを表す日を「四立」、「しりゅう」と言い表す。

立春の頃はまだコートがいるけど、どこからか梅の香りがする。

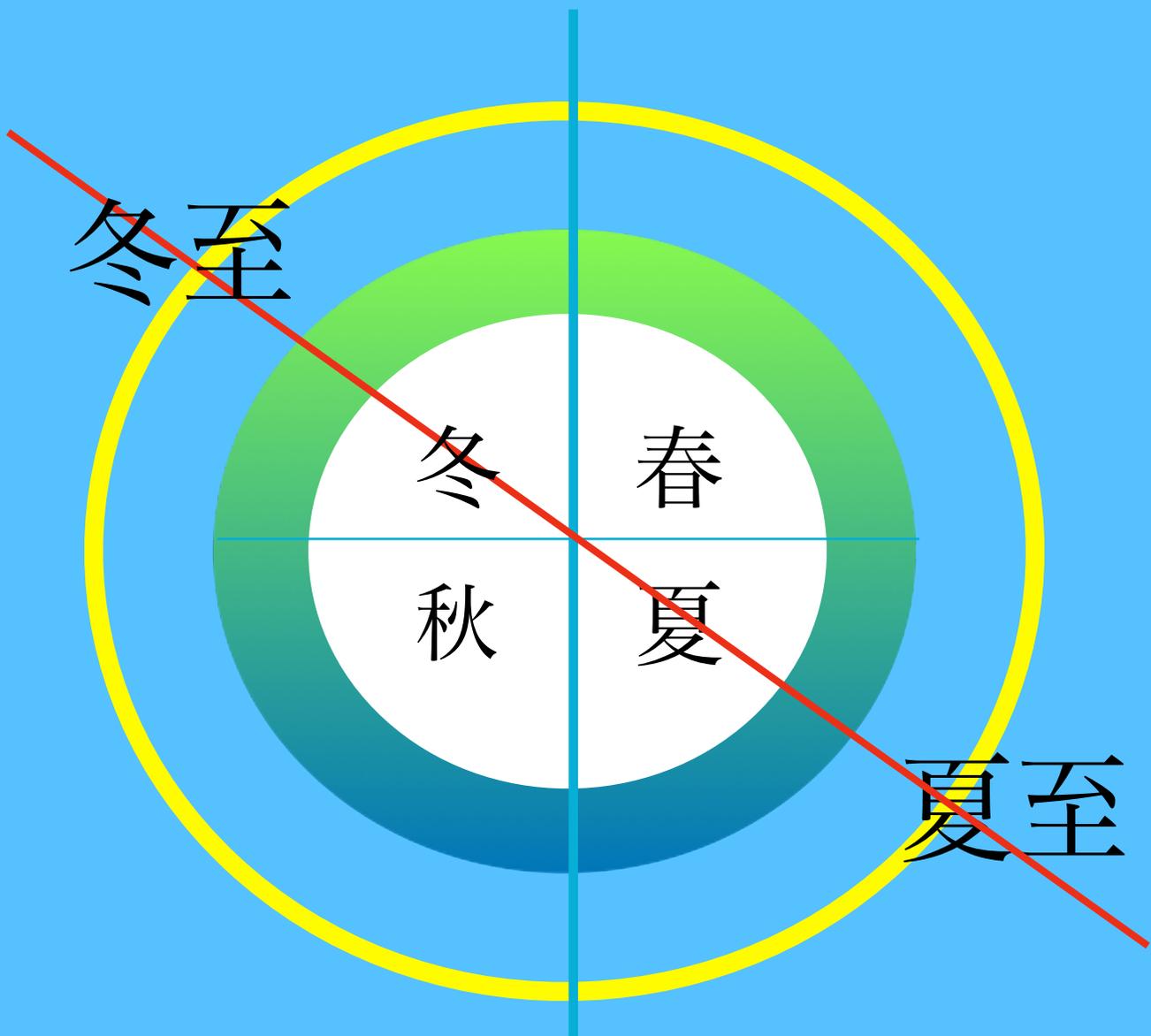
立夏は四月が終わったらすぐ。立秋なんて、八月にくるんだよ。

そしてお正月は立冬と立春の間に来るんだね。



二に至し

「夏至」この言葉、覚えているかな？ この日は、一年中で一番長く遊べる日。そして明るい時間が、この日から短くなる。冬至はだいたい、冬休みに来るね、五時くらいには外は真っ暗。でもこの日を境に日がどんどん長くなっていくね。



二分 にぶん

春分も秋分も、昼と夜の長さが同じ。家族でお墓参りに行って
おはぎを食べたり、そんな事なかったかな。

春分

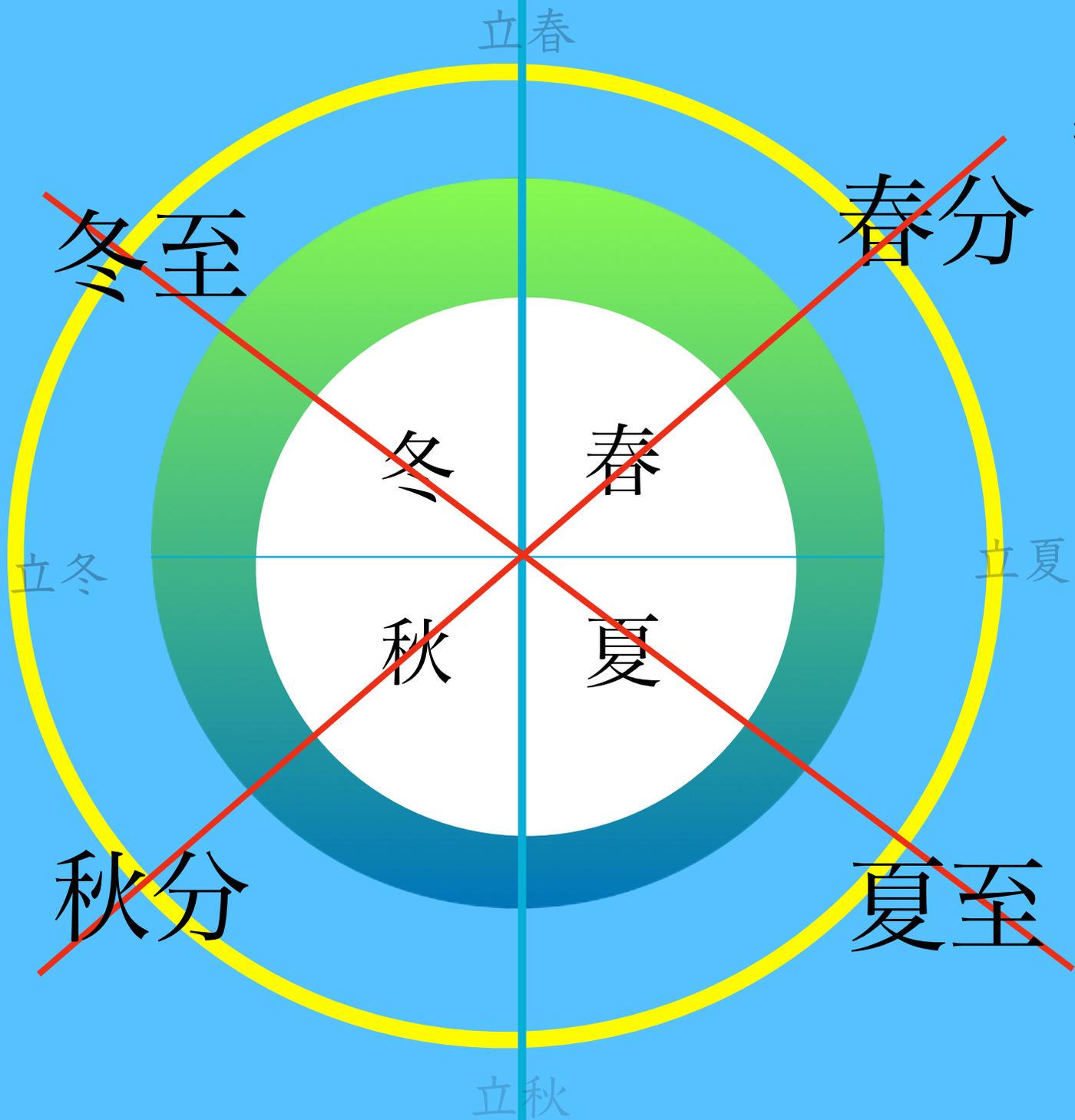
冬 春
秋 夏

秋分

二至二分

にしにぶん

二至と二分を合わせて、二至二分という。四つの季節の真ん中に来て、昼と夜の長さが同じになったり、日の出から日の入りまでの時間が最も長かったり、短かったりする、特別な四日だね。



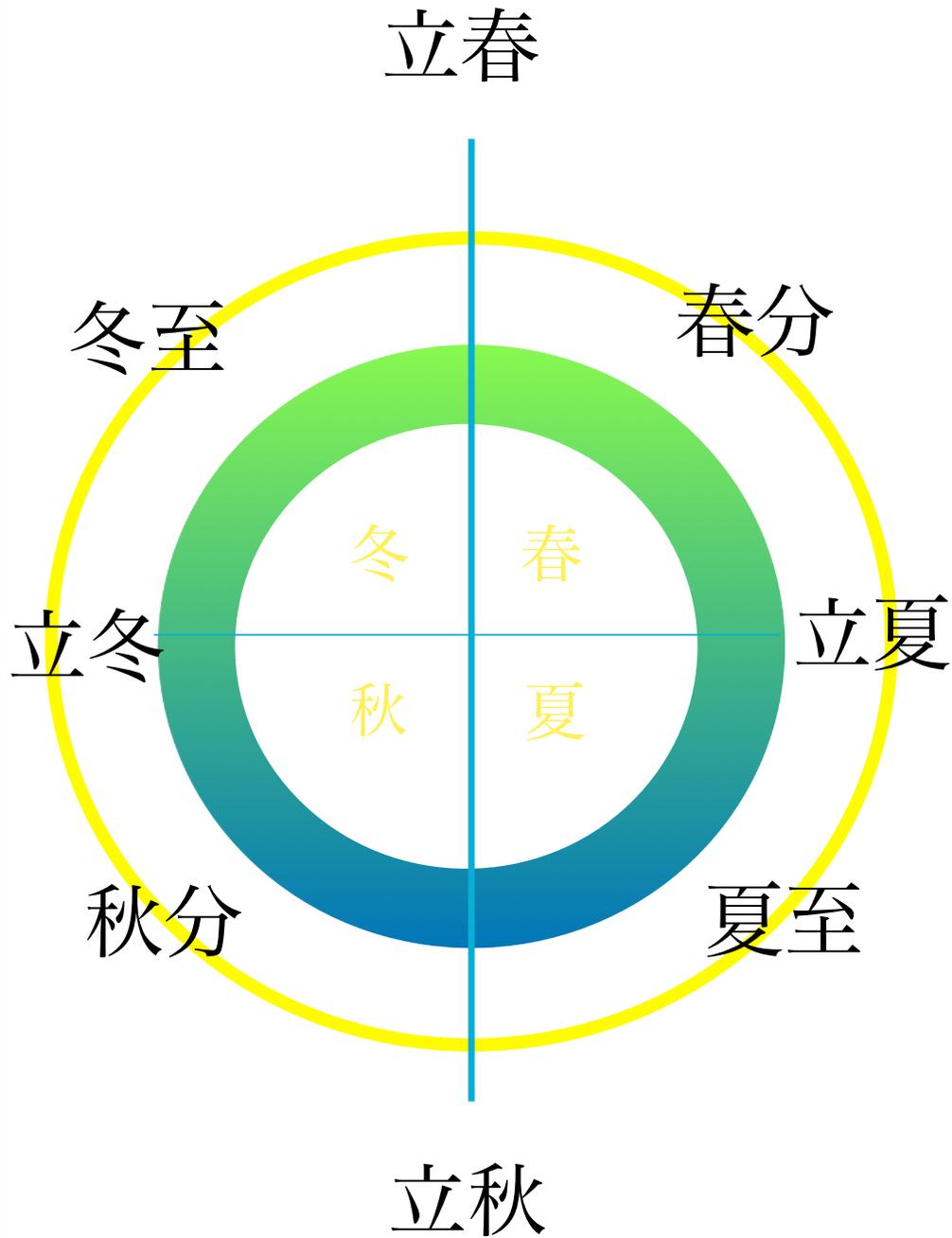
八節

にしにぶん

しりゆう

一 二至二分 四立

「二至二分」と、立春、立夏、立秋、立冬の「四立」をあわせると、一番最初に説明した「八節」が成り立つ。この八つの節気に残りの、十六節気が加わると次の二十四節気が全部そろうね。



そして、やつとの事で……

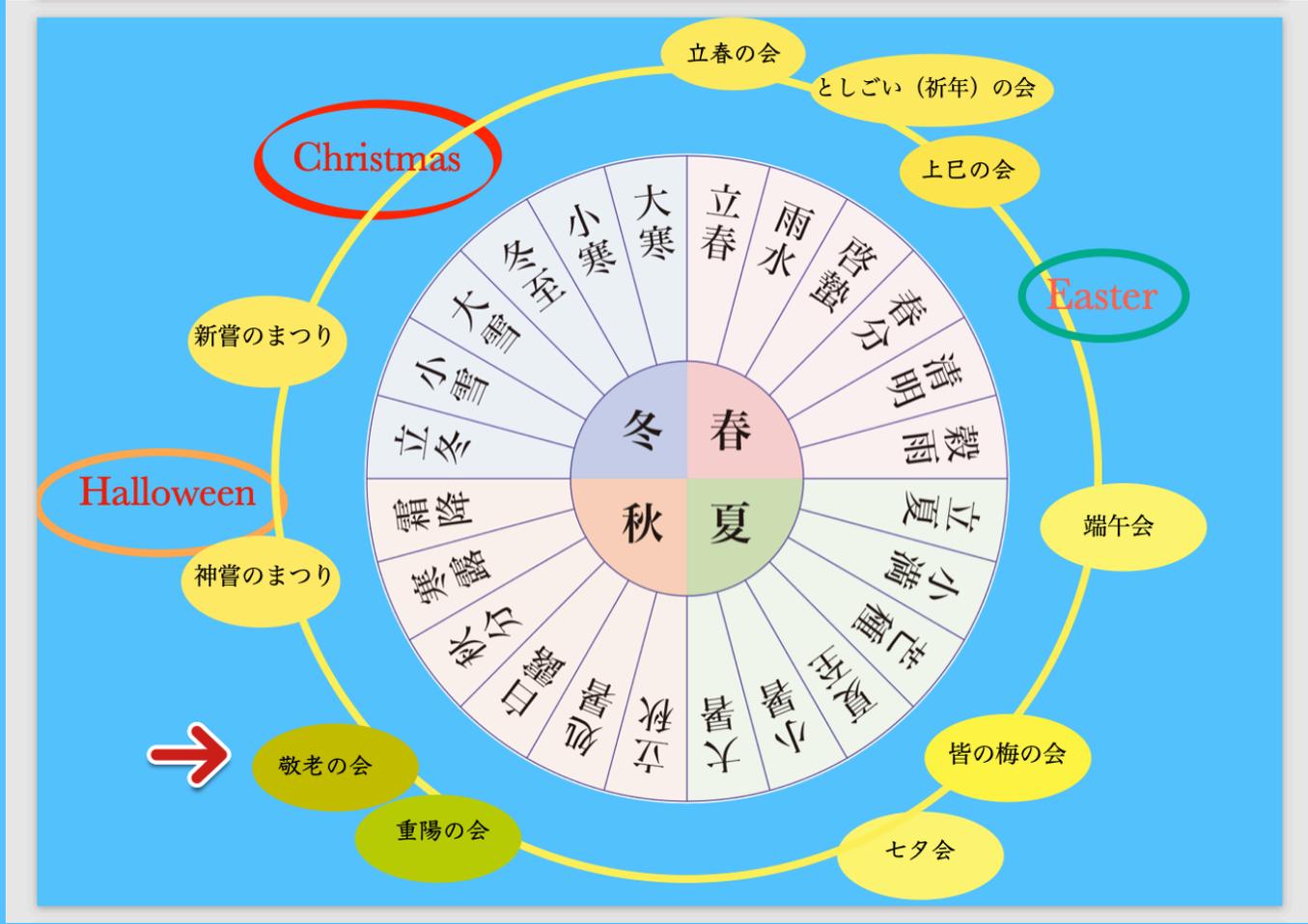
二十四節気

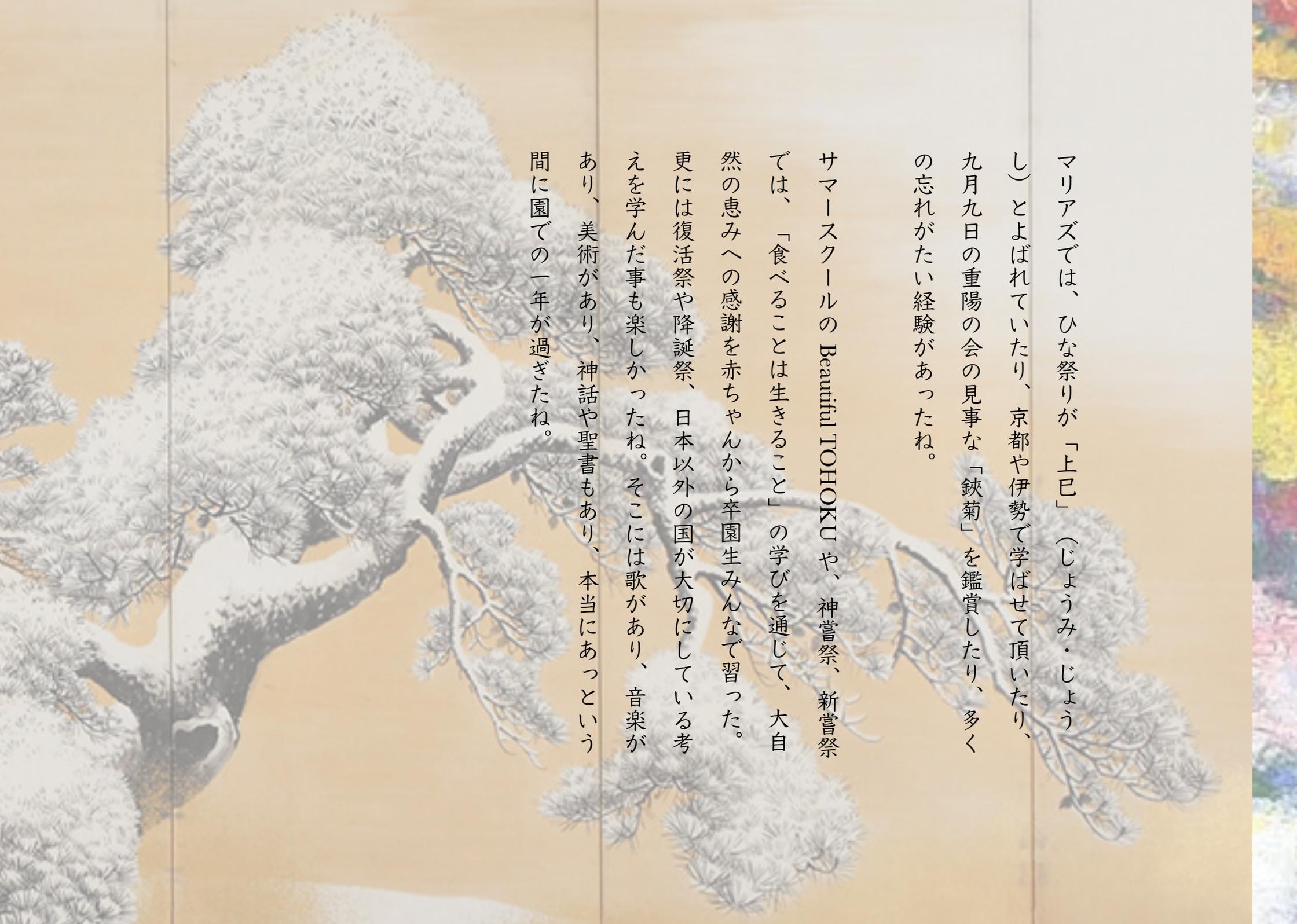
二十四節気が出揃うと、こんな感じになる。バランスがよく、とても綺麗じゃないかな。時計の数字の様に、意味を持たない「記号」ではなくて、「言葉」で大自然を表している。漢字は今では世界にひとつだけと言われる「表意文字」だから、一目で季節の情景が浮かぶよね。まるで一幅の絵の様に感じられるけど、あなたはと思う？



二十四節気と園曆

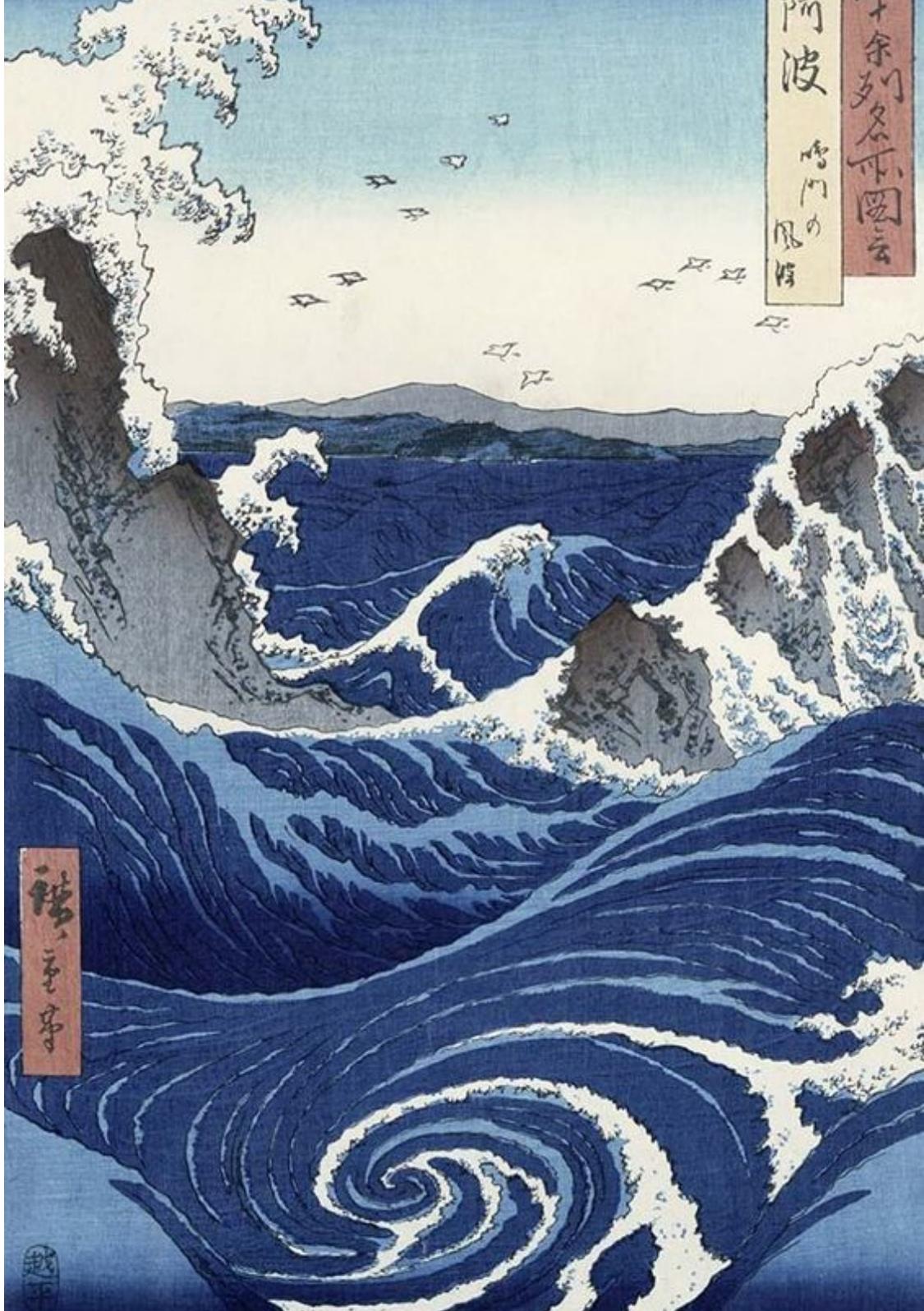
十五日ごとに次々と節気は巡る。節気の流れと共に、園の主要行事は行われる。一度学んだ事を、翌年の同じ頃、更に理解や経験を高めていく。その積み重ねが、皆の体の奥深くに染み込んで行く。小さい時から肌感覚で、しっかりと文化を身につけることを、地に足をつけて生きる、っていうんだ。みんなが大きくなった時に、はっきり違いが出る、なにより豊かな人生が送れるよ。





マリアズでは、ひな祭りが「上巳」（じょうみ・じょうし）とよばれていたり、京都や伊勢で学ばせて頂いたり、九月九日の重陽の会の見事な「鋏菊」を鑑賞したり、多くの忘れがたい経験があったね。

サマースクールの Beautiful TOHOKU や、神嘗祭、新嘗祭では、「食べることは生きること」の学びを通じて、大自らの恵みへの感謝を赤ちゃんから卒園生みんなで習った。更には復活祭や降誕祭、日本以外の国が大切にしている考えを学んだ事も楽しかったね。そこには歌があり、音楽があり、美術があり、神話や聖書もあり、本当にあったという間に園での一年が過ぎたね。



こういった事、小学校ではあまり教わらない内容かもしれないから、時間があつたらみんなの園にもどっていらっしやい。そこでまた思い出して、自分の力で整理してごらん。きっと小さい時の思い出がすーっと蘇ってきて、色々なものが繋がってくるよ。

そして、どうかあなた方が将来外国に行って、日本の事をきかれたら、知りません、ではなく答えられるようにちゃんと学び続けて欲しい。ただ、「知識」自体は、誰かが考えて用意してくれた事、大事なものは、そこからだから。自分たちの知識と他の国の知識が出会い、交わり重なるうとすると、いろいろな問いが生まれる。そしてその異なるふたつにおいて、其々の文化の歴史を深く追っていくと、「優れた問い」がみつかる。人の話をよく聞き、共に推論して考え、答えらしきものを辛抱強く求める、多分それが、あなたが外国に行く本当の目的。それには知識もある程度必要、だってそれがないと、最低限の質問にもこたえられないし「まともな問い」さえ湧いてこない、言ってる事、分かるでしょう。



今、みんなで、令和版・最新二十四節気を考案している。
「今の気候」にあった、新しい二十四節気を子供達の手で
創りなおそうとし始めている。もしかしたら節気が二十四
に至らないかもしれない、「鬼の観察眼」を大自然に向け
たら、実はもっと節気数が増えるかもしれない。温暖化が
進み、日本から春と秋が失われるようなことが危惧され、
現存の二十四節気が過去の美談になるのであれば、余計に
過去と現在を直視し、この時代のレガシーをしっかりと心
に留め、理解し、残して伝えておかなければならない。興
味のある人は一緒に考えよう！ 綺麗好の最後のコンタク
トに興味と意欲を知らせてね。



最後までのご視聴を頂きありがとうございます。

卒園生達にむけた暦の復習が、園暦のご理解への一助になりましたら幸いに思います。

私たち大人も子ども達と共に学び、共に成長する事が、明日への希望の確かな一歩であると
マリアズベビーズソサエティーは信じております。





汝自当知





マリアズベビーズソサエティの日々は
園を飛ばたいした後
ゆっくりと
時間をかけ
熟成させて行く
人格の基礎を
子の内にしっかりと築きます。



MARIA'S BABIES SOCIETY

MARIA'S BABIES SOCIETY

